

Sports ナガサキ

長崎国際大

女子ソフトチーム誕生

長崎国際大(佐世保市)に女子ソフトボールチームが誕生した。今年6月、初心者を含めた同好会としてスタート。来年度以降、本格的に強化を図る方針だ。進学と競技継続を望む高校生の新たな受け皿として期待されるチームのスローガンは「地域貢献」。5年以内の全国出場と学内の強化指定部への昇格を目指している。

屈指の強豪県

長崎県はこれまで、何度も日本一に輝いてきた高校男子を筆頭にソフトボールが盛ん。高校女子も九州文化学園高が2016、17年夏のインターハイで2年連続3位に入り、18年春の全国選抜大会で準優勝。19年は県選抜が秋の茨城国体で日本一に輝いた。今年も長崎商高が全国選抜大会で3位、インターハイで優勝。両校を中心に全国屈指の強豪県になった。

長崎国際大に新設された女子ソフトボール同好会の選手たち
長崎国際大グラウンド



高校生の受け皿に 全国目指して本格強化へ

1部があつたが、3年ほどで廃部に。この状況を打破しようと、約2年前にソフトボール経験者の学生たちが動いた。現在は佐世保市の公務員で、九州文化学園高時代に主将だった寶藏寺桃香さんが在学中、チーム結成を計画。コロナ禍で遅れたが、後輩たちが意志を継いで同好会発足までこぎ着けた。

指導者も歓迎

「高校生の進学の際の選択肢になればうれしいし、それまでのライバルが集まってくる楽しみもある」。発起人の寶藏寺さんはそう期待を込め、今も時間があれば練習に参加している。硬式野球部などで部長を務めてきた准教授の新藤照夫部長兼監督も「地域に愛され、社会貢献できるチームになる。将来的には実業団に選手を送り込めるようになるれば」と理想像を描いている。



活動に向けてグラウンドを整備する選手たち
長崎国際大グラウンド

この動きを高校の指導者たちも歓迎する。九州文化学園高の碓田明監督は「地元での進学、就職までを考えてみても、いい循環が生まれそう。団体チームの成年女子の強化の面でも楽しみ。すぐ結果を出すのは難しいだろうが、高校とも連携しながらやっていければ」と前向きだ。県ソフトボール協会も支援の意思を示している。

選手数も今はぎりぎりだが、来春以降は有力な経験者も複数入学する見込み。その活動資金不足を補つため、チームの保護者会はクラウドファンディングを始めた。11月5日まで寄付を呼び掛けており、金額もページ閲覧数も伸びている。九州文化学園高出身の岩永舞穂主将(4年)は「卒業と而立しながら上を目指していけるチームになって、一人でも多くの人ソフトを続けたい」と思える受け皿になっていけばうれしい」と意気込んでいる。(石田慶介)

全日本小学選抜ソフト県予選 日野ジュニアスターズ初V



【決勝】白山JF少年 日野ジュニアスターズ 8回裏日野ジュニアスターズ1死1三塁 萩尾が右前にサヨナラ適時打を放つ
松浦市民運動公園

ソフトボールの第15回ニアスターズが初優勝。全日本小学選抜県予選は、全国大会(来年3月)まで、松浦市民運動公園(26日・28日・北九州市)のトーナメント方式で行われ、日野ジュニアスターズが出場権を得た。

エース中村 30得点 女子・長崎西



【女子準決勝】長崎西1長崎西2第2クォーター4分、長崎西のガード中村が決めて16点目
長崎西

○大接戦となった女子準決勝の長崎西1長崎西2は、2点を狙う長崎西が2点差で競り勝った。両チーム最多の30得点を記録した長崎西の2年生ガード中村は「3年生とまた東京に行きたいから、勝ててうれしい」と笑みを浮かべた。身長160センチのエースは大身な局面で勝負強さを発揮しと決めてみせた。

全国高校バスケット県予選

男子 西海学園―長崎

女子 鎮西学院―長崎

決勝進出

バスケットボールの第1、2シードの西海学園(守をしかして前半を46-61の第74回全国高校選手権)と長崎西(女子も第1、43で折り返したが、後半にガク)にガク。インターカップ)県予選 2シードの鎮西学院と長崎西は決勝に進んだ。長崎西は18日、長崎市の西海学園(男子準決勝の西海学園)に勝つ。長崎西は、長崎工が堅いサイドを支配すると、61-61で最後は